

# 紅茶の帝国

世界を征服したアジアの葉

マークマン・エリス  
リチャード・コールドトン (著)  
マシュー・メージャー

越 朋彦 (訳)

## なぜ紅茶がイギリスの「国民的飲料」となったのか?

17世紀にロンドンで初めて市民に提供されて以来、そのエキゾチックな風味、色、香りによってイギリス人を魅了し続けてきた紅茶。19世紀以降は「イギリス的生活様式」の中心として、国民のアイデンティティ統合のシンボルとなった——「アジアの葉」から作られるこの不思議な飲み物は、過去400年間のイギリス社会・文化において、どのように消費・受容・表象されてきたのか。

本書は、歴史、文学、科学、美術、社会史、経済史等の諸分野を自在に横断し、多角的かつ新鮮な視点から紅茶文化史を紐解くことで、この問いに迫る。



8月20日  
配本予定

四六判 上製 520頁

予価(本体4,200円+税)

ISBN978-4-327-37747-2 C0039

NDC : 383

目次

イントロダクション

- 第1章 ヨーロッパと茶の初期の出会い
  - 第2章 イギリスにおける茶嗜好の確立
  - 第3章 中国との茶貿易
  - 第4章 茶の価値の向上
  - 第5章 茶の自然哲学
  - 第6章 イギリスの茶市場
  - 第7章 イギリス式の茶
  - 第8章 密輸と課税
  - 第9章 喫茶の民主化
  - 第10章 帝国の政治における茶
  - 第11章 ヴィクトリア朝イギリスの国民飲料
  - 第12章 ニ〇世紀の茶
- エピソード——グローバル・ティー

著者紹介

■マークマン・エリス

ロンドン大学クイーンメアリー校 英文科18世紀研究教授。主な著書に、*The Coffee House: A Cultural History*, *The History of Gothic Fiction*, *The Politics of Sensibility: Race, Gender and Commerce in the Sentimental Novel* など。

■リチャード・コールドトン

ロンドン大学クイーンメアリー校 上級講師。主な著書に、*Stealing Books in Eighteenth-Century London* (共著) など。

■マシュー・メージャー

ロンドン大学クイーンメアリー校 上級講師。主な著書に、*Stealing Books in Eighteenth-Century London* (共著) など。

■越 朋彦(こしともひこ)

英文学研究者。1975年生まれ。首都大学東京 人文社会学部 准教授。上智大学文学部英文学科卒業。英国・レディング大学大学院英文学専攻博士号取得。専門は17世紀イギリス文学。主な著書に「イギリスの新聞を読む」(編註、研究社)、「図説 サインとシンボル」(共訳、研究社) など。

リジー・コリンガム、松本裕「大英帝国は大食らい——イギリスとその帝国による植民地経営は、いかにして世界各地の食事をつくりあげたか」河出書房新社(2019.3)  
ルース・グッドマン、小林由果「ヴィクトリア朝英国人の日常生活——貴族から労働者階級まで 上・下」原書房(2017.7)

新刊  
申込書

紅茶の帝国 世界を征服したアジアの葉

予価(本体4,200円+税)

ISBN978-4-327-37747-2 C0039

申込数

書店名(印)

冊

お名前

ご住所 〒

TEL

\*表示の価格は本体価格です。別途消費税がかかります。19.06